

01 株式会社INBプランニング

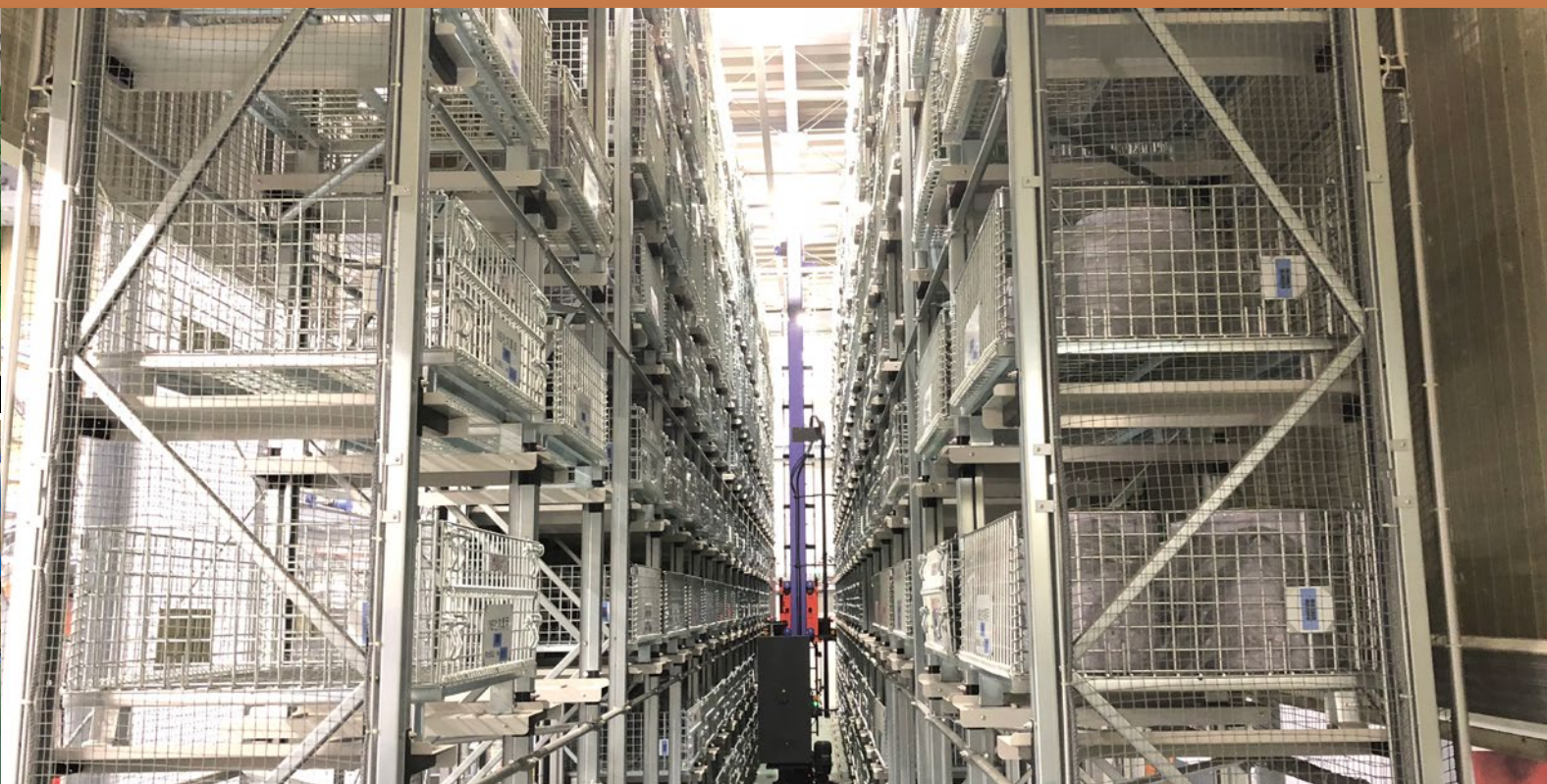
原材料と生産工程を
一体で管理。
進化させた手法で、
高品質な製品を
的確かつ素早く供給する



生産するゴムコンパウンドは一品一様



詳細なデータを記録したレシピに基づいて製造



補助金を利用して導入した自動倉庫の一部。生産の効率化に大きく役立っている



平成30年2月に完成した新本社工場

data あいぬびーふらんにく

代表者役職名・氏名／代表取締役社長・稲葉芳久
設立年月日／平成12年6月12日
住 所／〒474-0042
大府市高丘町一丁目100番地
電 話／0562-45-6966
F A X／0562-45-6967
U R L／<http://www.inbplan.co.jp>
E-Mail／y_inaba@inbplan.co.jp
資 本 金／9000万円
業 種／ゴムコンパウンドの製造・販売

すべてオーダーメイドが基本

INBプランニングは、ゴム部品などの材料となるゴムコンパウンドの製造・販売を手がけている。ゴムコンパウンドとは、あまり聞きなじみのない材料だが、稲葉芳久社長は「『うどん』に例えると分かりやすい」と解説する。

うどんは小麦粉に水やつなぎを入れ、味付けをしながら、こねて作る。ゴムコンパウンドでは小麦粉が合成ゴム（ポリマー）、水がプロセスオイル（可塑剤）、つなぎがカーボン、味付けには各種の添加剤が当たる。

ゴムコンパウンドは“生モノ”であり、放置しておくと品質が落ちてしまうことから、受注してからの生産が基本となる。また、同社が製造するゴムコンパウンドはすべてオーダーメイドで、顧客ごとに種類が異なり、使用する原材料の種類も膨大とな

る。さらに、うどんをこねる時と同じように「どの程度の力と時間と温度を加えて混練するか」（稲葉社長）ということも品質を決定する際の重要なポイントだ。

“レシピ”により徹底的に管理

このため、同社ではすべてのゴムコンパウンドについて“レシピ”を残している。ゴムコンパウンドの業界では、「熟練者の経験やカンに頼ることが多い」（同）というが、同社では時間、温度なども含めた詳細なデータを記録したレシピに基づき製造。そのレシピはすべてコンピューターで管理している。「1年後に製造してもまったく同じ物ができあがる」（同）ほど、徹底して管理している。

こうした取り組みなどが高く評価され、同社は順調に取引先を拡大。中国にも進出しており、業績を順調に伸ばしてきた。そして生産能力の

拡大に向け、従来の工場が手狭になってきたことなどから、平成30年2月に新本社工場を完成した。

生産を効率的にコントロール

この新本社工場の稼働にあたり、考えたのがレシピ管理からさらに一歩進んで「原材料と生産の管理を一体化すること」（同）。M2M（マシン・ツー・マシン）によって各機械間をつなぎ、原材料の配合から生産を効率的にコントロールしようという取り組みだ。

具体的にはオーダーがあると、レシピに記録された必要な原材料が出て、各生産工程に自動で搬送される仕組みだ。生産に合わない原材料があると、次工程に送られないようにしている。

この仕組みを構築するにあたり、「平成28年度補正革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」

を活用。原材料、仕掛かり品、薬品用の自動倉庫とソフトウェアを導入した。導入してからわずか半年あまりだが、設備は順調に稼働しており、「品質の良い製品をよりの確に早く納められるようになった」（同）。

高品質を武器に業績を伸ばす

ゴムコンパウンドを手がけるメーカーは全国で「数十社程度」（同）。その中で同社のようにコンピューター管理を徹底している企業は珍しいという。ものづくり補助金の採択を受け、「原材料と生産工程の一体管理という当社の取り組みを理解してもらえた」（同）のも大きな励みとなった。

同社の製品は約70%が、自動車のタイヤ以外のゴム部品向け。自動車は生産の海外シフトが進み、ゴムコンパウンドの国内需要は減っているという。しかし、そんな中であって

同社は業績を伸ばしている。これは自動車という品質管理の厳しい業界向けだけにコンピューター管理を徹底し、高品質な製品を供給し続けてきた結果ともいえる。

同社は受注拡大に向けて、ものづくり補助金の成果を生かし、今後もより高度な品質管理を徹底していく。



無人搬送車もさまざまな場面で活躍